

与論町の部活動地域移行

先生・生徒・地域のために

与論町教育委員会事務局学務課 参事兼指導主事 兒玉 拓世



地域移行のねらい

国が提唱する「中学校部活動の地域連携・地域移行」。各自治体では、部活動の地域移行について、関係者による協議が行われています。また、校区によつては、地域移行の取組が具体的に進んでいるかもしれない。

県最南端に浮かぶ人口約五千人の島、与論島。与論町立与論中学校は、この島で唯一の中学校です。そして、与論中には、7つの運動部と2つの文化部があります。

ただ、多くの中学校がそうであるように、与論中の部活動は、勤務を要しない休日の活動を含む、先生方の献身的な勤務によつて支えられています。そして、先生方が部活動の指導に費やす時間の長さは、与論中で最大の要因となっていました。そのため、与論町教育委員会(以下、「町教委」)は、部活動の指導に地域の方々に関わってくださることを望んでいました。

人口が決して多くはない与論島ですが、競技・実技経験のある町民は少なからずいらつしやいます。そのような町民が、御自身のスキルを生かして部活動の指導に関わってくだされば、より専門的な指導が実現することはもちろん、顧問の先生が転任等で交代しても、地域に支えられる形での部活動の歴史が引き継がれます。これは、生徒や地域にとつてのメリットになります。

そこで、町教委は、「教師の負担軽減(学校)・専門的な指導の実現(生徒)・地域におけるスポーツ・文化活動の持続可能化(地域)」という3つのメリットを明確に打ち出すことにより、与論中の全面的な協力のもと、休日の部活動の地域移行に着手しました。

与論中では、令和5年度末時点で、サッカー部、剣道部、野球部、卓球部、吹奏楽部の計5部活の

休日の活動を地域に移行しています。地域の指導者の所属等は様々で、町教委が声を掛けた体育連盟所属の町民、広報紙の募集記事を読んで応募した実技経験者、兼職許可を受けた公務員教員(含む)など、計18人を任用しています。

地域移行の現状

指導者全員が自分の仕事をもつていらつしやるため、無理のない範囲での協力をお願いしています。しかし、生徒との信頼関係や御自身の指導スタイルが月日とともに安定していくにつれ、指導の内容は年々充実しており、現在、「教員以外の指導者の引率による対外試合参加(宿泊を伴う)」が頻繁に行われるようになるなど、地域移行は着実に活性化しています。

「語り合う場の大切さ」
地域移行を円滑に進めるために最も重要なことは、「関係者が定期的に語り合うこと」だと思います。与論町では、学校・地域・行政・関係機関の四者が集まり、地域移行の現状と課題について語り合う協議会を、年4回以上設けています。



関係者で語り合う場

「その時期は誰が中心な指導者になるべきか」、「生徒のために他に取組めることはないか」といった話題について、建設的な話し合いが熱心に行われます。答えが見つからずに迷う瞬間もありますが、その時は、先述した三つのメリットに立ち返り、地域移行が目指すビジョンを再確認するようにしています。

おわりに

地域移行について、与論中の生徒から、「専門的なアドバイスがあるので助かる。」「部員数が少ないので地域の方がいらつしやると嬉しい。」「地域の方が活動の場を広げてくださりありがたい。」「などの嬉しい声をもらうことがあります。そういった声は、関係者全員にとって、何よりの活力となっています。



町民による指導の様子